

令和2年（2020年）梅雨のまとめ

令和2年9月1日 新潟地方気象台

1 梅雨入り・明けの時期

事後検討（注1）による令和2年（2020年）の梅雨入り・明けの時期（注2）は表1のとおりである。

表1 今年の梅雨入り・明けの時期

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	今年	（平年）	今年	（平年）
沖縄	5月16日ごろ	（5月9日ごろ）	6月12日ごろ	（6月23日ごろ）
奄美	5月17日ごろ	（5月11日ごろ）	7月20日ごろ	（6月29日ごろ）
九州南部	5月30日ごろ	（5月31日ごろ）	7月28日ごろ	（7月14日ごろ）
九州北部	6月11日ごろ	（6月5日ごろ）	7月30日ごろ	（7月19日ごろ）
四国	6月10日ごろ	（6月5日ごろ）	7月29日ごろ	（7月18日ごろ）
中国	6月10日ごろ	（6月7日ごろ）	7月31日ごろ	（7月21日ごろ）
近畿	6月10日ごろ	（6月7日ごろ）	8月1日ごろ	（7月21日ごろ）
東海	6月10日ごろ	（6月8日ごろ）	8月1日ごろ	（7月21日ごろ）
関東甲信	6月11日ごろ	（6月8日ごろ）	8月1日ごろ	（7月21日ごろ）
北陸	6月11日ごろ	（6月12日ごろ）	8月1日ごろ	（7月24日ごろ）
東北南部	6月11日ごろ	（6月12日ごろ）	8月2日ごろ	（7月25日ごろ）
東北北部	6月25日ごろ	（6月14日ごろ）	特定できない	（7月28日ごろ）

事後検討の結果、北陸地方の梅雨入りの時期は、当初発表日と同じく「6月11日ごろ」に、北陸地方の梅雨明けの時期は、「8月1日ごろ」に確定した。

北陸地方（新潟県・富山県・石川県・福井県）の今年の梅雨入りの時期（6月11日ごろ）は、「平年並」の階級（「平年並」の範囲は6月8日～14日）となり、昨年（6月7日ごろ）より4日遅かった。梅雨明けの時期（8月1日ごろ）は「平年より遅い」の階級（「平年より遅い」の範囲は7月28日～8月4日まで）となり、昨年（7月24日ごろ）より8日遅かった。

6月上旬は梅雨前線が日本の南海上に停滞し、北陸地方は好天日が続いた。6月11日から梅雨前線が北上し、6月中旬の中頃にかけて北陸各県で悪天日（日照時間が5時間未満の日）が継続する予想から、速報値で梅雨入りは6月11日ごろとした。6月中旬の中頃から6月下旬の中頃までは好天日（日照時間が5時間以上の日）が現れたものの、6月下旬の中頃からは梅雨前線が本州付近に停滞することが多くなり、7月末にかけて多雨・寡照となり、大雨となった所もあった。速報値での梅雨明けはその後数日の好天日が見込めることから8月2日ごろとしたが、8月1日は高気圧に覆われ北陸地方の広い範囲で晴れとなり、寒気の影響で大雨となった新潟県の一部でも昼頃には天気が回復し、好天日に近い日照時間となった。事後検討により梅雨入りを6月11日ごろ、梅雨明けを8月1日ごろに確定した。

注1：梅雨入り・明けの時期は、過去の実況と数日から1週間程度の天候予想に基づいて、「梅雨の時期に関する北陸地方気象情報」として速報的に発表（当初発表）する。後日、天候の経過を考慮して再検討したうえで確定する（事後検討）。記録として残るのは、この事後検討の値である。

注2：梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間がある。その遷移期間の概ね中日をもって「* * 日ごろ」と表現する。

2 北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量

北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量平年比は162%（除く、相川）であった。なお、1946年以降で6月～7月の降水量が最も少ない年は1994年（平年比36%）で、最も多い年は1964年（平年比175%）である。

各地の梅雨の時期（6月～7月）の降水量は表2のとおりである。6月の階級は、新潟と輪島が「少ない」、高田と伏木が「平年並」、富山と金沢、敦賀が「多い」、福井が「かなり多い」となり、北陸地方平均としては「平年並」の階級となった（除く、相川）。7月の階級は、高田と富山、伏木、金沢、輪島、福井で「多い」、新潟と相川、敦賀で「かなり多い」となり、北陸地方平均としては「かなり多い」の階級となった。

同時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量は表3のとおりである。

表2 梅雨の時期の降水量

地点	6月		7月		6～7月合計		
	降水量 (mm)	平年比(%)	降水量 (mm)	平年比(%)	降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比(%)
新潟	80.5	63	649.5	338	730.0	320.0	228
相川	80.0]	×	474.5	275	554.5]	300.8	×
高田	115.0	79	333.0	158	448.0	355.9	126
富山	235.5	129	382.0	159	617.5	423.0	146
伏木	180.5	107	369.0	158	549.5	401.5	137
金沢	296.0	160	445.0	192	741.0	417.0	178
輪島	85.0	52	376.0	186	461.0	365.2	126
福井	298.0	179	395.5	169	693.5	399.9	173
敦賀	237.0	143	418.5	214	655.5	361.5	181

表3 梅雨の時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量

地点	最大日降水量		最大1時間降水量		最大10分間降水量	
	(mm)	(月日)	(mm)	(月日)	(mm)	(月日)
新潟	85.5	7月28日	20.0	7月28日	16.5	7月27日
相川	75.0	7月28日	19.0	7月26日	9.5	7月1日
高田	55.5	7月4日	27.5	7月18日	11.0	7月26日
富山	87.0	7月4日	22.5	7月8日	9.0	7月8日
伏木	70.0	7月4日	26.5	7月31日	10.0	7月7日
金沢	99.5	7月7日	43.0	7月7日	15.5	7月9日
輪島	75.0	7月7日	22.5	7月7日	11.5	7月21日
福井	103.5	6月14日	36.5	6月28日	12.5	6月28日
敦賀	71.5	6月14日	32.0	6月14日	16.0	7月31日

(注) 値の横に“()”や“]”がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。“×”は資料不足値(“(]”あり)のため階級を求めていないことを示す。

“()”付きの値(準正常値)は通常のもと同様に扱うことができるが、“]”付きの値(資料不足値)については、統計日数(統計に用いた品質が十分な日数)を气象台等に確認して、品質を確かめてください。

3 梅雨の特徴

令和2年（2020年）の梅雨入り・明けの階級は以下のとおりである（いずれも平年に比べて）。

《梅雨入り》

- ・かなり早い：なし
- ・早　　い：なし
- ・平　年　並：九州南部、北陸、東北南部
- ・遅　　い：沖縄、奄美、九州北部、四国、中国、近畿、東海、関東甲信
- ・かなり遅い：東北北部

《梅雨明け》

- ・かなり早い：沖縄
- ・早　　い：なし
- ・平　年　並：なし
- ・遅　　い：関東甲信、北陸、東北南部
- ・かなり遅い：奄美、九州南部、九州北部、四国、中国、近畿、東海

梅雨入りは、6月10日ごろ（四国、中国、近畿、東海）、6月11日ごろ（九州北部、関東甲信、北陸、東北南部）が多かった。梅雨明けは、沖縄で「かなり早い」、関東甲信と北陸、東北南部は「遅い」、その他は「かなり遅い」となり、東北北部は「特定できない」こととなった。

4 北陸地方の梅雨の経過

（1）6月の経過

前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日があり、前線の活動が活発となり大雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

北陸地方は6月11日ごろ梅雨入りしたとみられる。

6月の平均（合計）と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	6月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差階級	+1.9℃ かなり高い	+2.8℃ かなり高い	+1.3℃ 高い	+1.5℃ 高い
降水量平年差階級	114% 平年並	15% 少ない	283% かなり多い	61% 少ない
日照時間平年差階級	127 % かなり多い	146 % かなり多い	81 % 少ない	161 % かなり多い

※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したものである。6月の降水量平年比には、欠測がある相川のデータは含めない。

◎北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所（相川、高田、伏木、輪島、敦賀）における6月の主な
月間気象要素の累年極値および順位（3位以内）更新一覧表

地点名	要素名	順位	値	起日	統計開始
高田	月平均気温の高い方から	2	22.3℃	2020年6月	1922年6月
相川	月平均気温の高い方から	2	21.3℃	2020年6月	1911年6月
富山	月平均気温の高い方から	1＝	23.0℃	2020年6月	1939年6月
金沢	月平均気温の高い方から	2＝	23.2℃	2020年6月	1882年6月
輪島	月平均気温の高い方から	2	21.6℃	2020年6月	1929年6月
福井	月平均気温の高い方から	3	23.5℃	2020年6月	1897年6月
敦賀	月平均気温の高い方から	3	23.4℃	2020年6月	1898年6月

※順位の欄の“＝”はタイ記録を示す。

（2）7月の経過

前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、前線の活動が活発となり、大雨となった日もあった。

6月下旬の中頃以降多雨・寡照となったため、9日と22日に「長雨と日照不足に関する北陸地方気象情報」を発表した。

7月の平均（合計）と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	7月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差階級	-0.9℃ 低い	-0.2℃ 平年並	-1.1℃ 低い	-1.3℃ 低い
降水量平年差階級	205 % かなり多い	273 % かなり多い	118 % 多い	278 % かなり多い
日照時間平年差階級	40 % かなり少ない	25 % かなり少ない	73 % 平年並	29 % かなり少ない

※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したものである。

◎北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所（相川、高田、伏木、輪島、敦賀）における7月の主な
月間気象要素の累年極値および順位（3位以内）更新一覧表

地点名	要素名	順位	値	起日	統計開始
新潟	月降水量の多い方から	1	649.5mm	2020年7月	1881年7月
新潟	月間日照時間の少ない方から	2	75.3h	2020年7月	1892年7月
高田	月間日照時間の少ない方から	1	30.5h	2020年7月	1922年7月
相川	月間日照時間の少ない方から	1	78.5h	2020年7月	1911年7月
相川	月降水量の多い方から	3	474.5mm	2020年7月	1911年7月
富山	月間日照時間の少ない方から	1	51.5h	2020年7月	1939年7月
伏木	月間日照時間の少ない方から	1	63.0h	2020年7月	1893年7月
金沢	月間日照時間の少ない方から	2	69.5h	2020年7月	1891年7月
福井	月間日照時間の少ない方から	2	62.2h	2020年7月	1898年7月
敦賀	月間日照時間の少ない方から	2	55.0h	2020年7月	1914年7月